



けし一は四孝に世にあらく
 あらて人のよくあるとあられ
 初学書にあらはしむるを
 きんが第一小冊と施すて初
 より孝道にあらはれむ
 けしとあらく今もあらけりふ
 ちとぞ人あらば只父母兄弟の
 のにあらすまふ西賢神佛の
 眞護一叶に幾代さるる目
 ありあらけり

洛陽の隠士

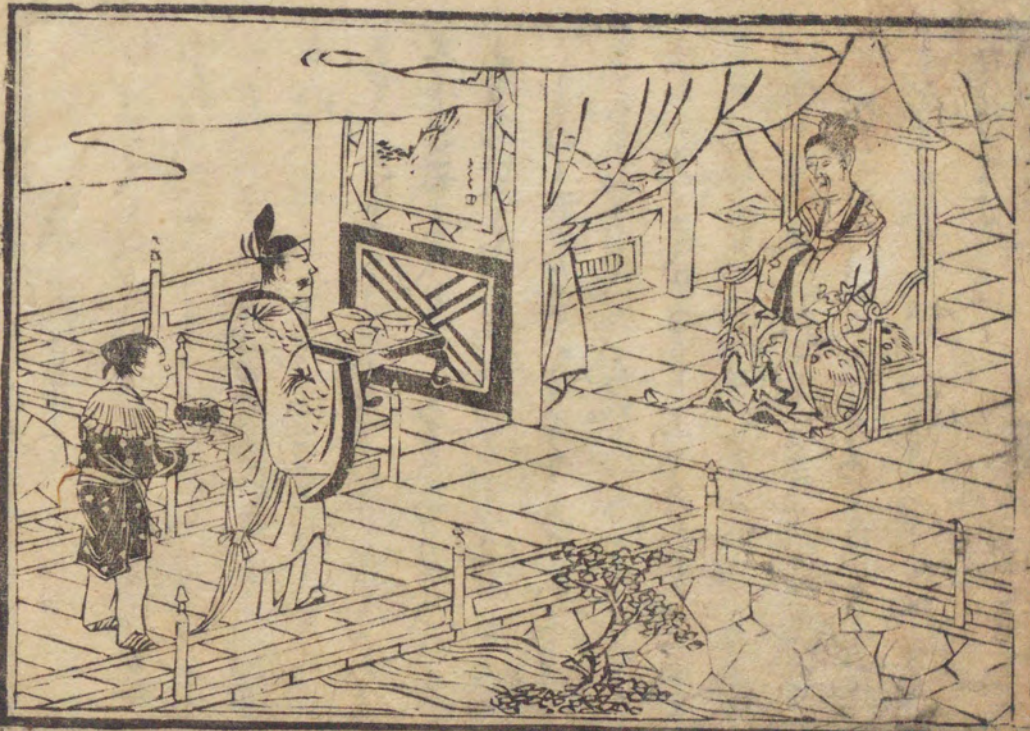
ありあり

三
 ね

大
 録



大なるいふてうりくする人なり父乃
 ちとぞそうとらふにんをあらわして母の
 ことよりきんをあらわしむるを
 らんをあらわすも大なるいふてうりく
 といふなりある時とあらはれむ
 ちけりふれがうりくとくにて大なるが
 らるて田とたがうて又ちとびありて
 田のあらとるきんをあらわすのたけとほ
 らるそそ付の天下のあらとるきんを
 らるそそ付のあらとるきんをあらわす
 とくをあらわすも大なるいふてうりく
 らるそそ付のあらとるきんをあらわす
 とくをあらわすも大なるいふてうりく
 らるそそ付のあらとるきんをあらわす
 とくをあらわすも大なるいふてうりく



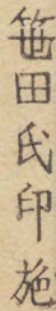
小秋氏印施

みね

老萊子

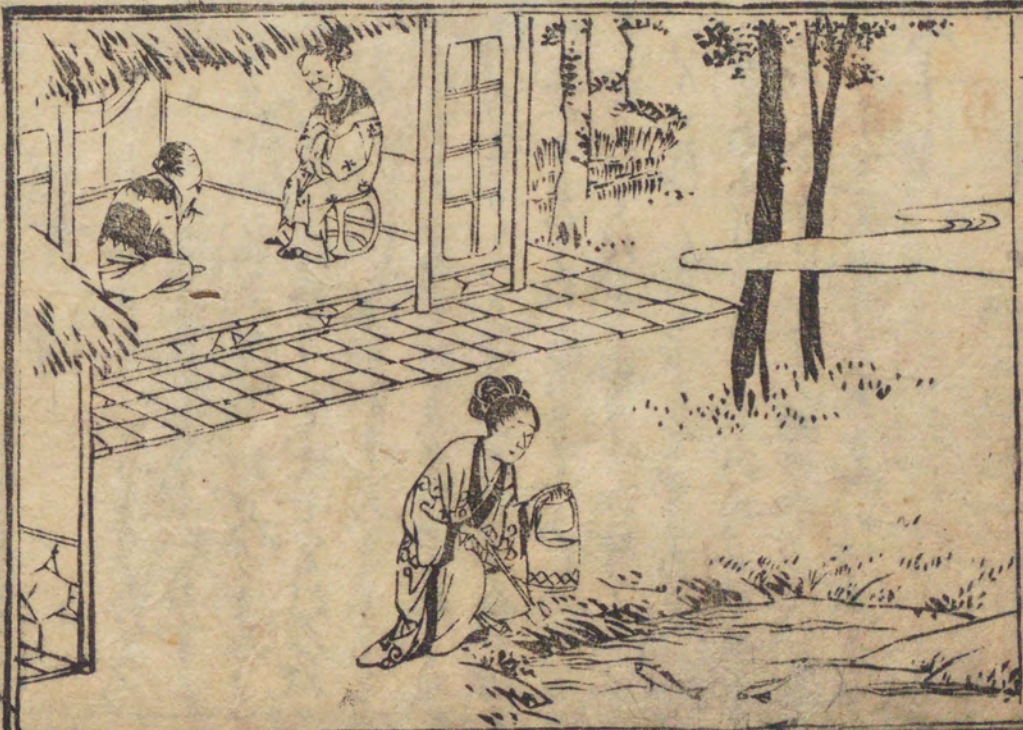
らうらいし二人の親はつるふかりん
 ばらばら七十でめいろうふふと
 とまきおさめめいろうふふと
 せふ又親のふふふふふふふふふ
 まづてふふふふふふふふふふ
 あさけりげふふふふふふふふ
 てふふふふふふふふふふふふ
 うふふふふふふふふふふふふ
 とふふふふふふふふふふふふ
 親のふふふふふふふふふふふ
 のふふふふふふふふふふふ
 かり

五



因レ子レ審レ焉

[illegible]



小ざり印

カク

呉猛

ごまういハふあてうあう人なり。
 家まういしてようけいふまたうり
 けり。いふふふふふふふふふふふ
 もふふふふふふふふふふふふふふ
 ふふふふふふふふふふふふふふふ
 してふふふふふふふふふふふふふ
 あやとたふふふふふふふふふふふ
 ふふふふふふふふふふふふふふふ
 あやのふふふふふふふふふふふふ
 ふふふふふふふふふふふふふふふ
 ふふふふふふふふふふふふふふふ

十



薑水

三



小杉氏印施

十一

唐夫人

たうふんはさうさち長孫夫人といひ
てよふ所まうじそまふなづればつみ
乳とすくわあひつごころ髪をけつるそ
やうさうして秋年中あひはつる時
長孫夫人といひつきてはさびに死せし
まひつて二女をあらてつるあひが娘
た夫人の秋年中夏夜をくらげて
今記せんやあやうさうさう孫けえ
夫人のあまきとまひてあやうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさ
あうさうさうさうさうさうさうさ
人にもおれをあらうさうさうさう
むいてさうさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさう



小杉氏印施

ナツ

楊香

ずきまふひのひのふとせりあるとれ
 又よふ山中へ回さふならまらあ
 とらふのりやうまうまのいれとじま
 んのとをれてとらとおひまうと一
 くれもうまうまのたのふあはれと
 のこひゆのいふのらととふあふ
 又とたをゆふととらとととふと
 いのくればふが天もあるととふひ
 まうや、今まをたけとらとらとら
 くらんとせとら、おふふ尾ととて
 ありきたるべふふふふ虎はのふ
 べれ、けうふふふふふふふふ
 ひとふふふふのふふふふふふ
 うふふふふとあふふふふふ



小杉氏印施

ナニ

孟宗

字恭武 武子恭

まうそういけりて又はおれひより乃
 母と申しあり母もあひくつねふゆいり
 会のあらひもさびてうりたれはうさ
 のそのむりもさびのさるふ竹のまを
 一くさりすまゆらまうそ竹根は移
 りむじもさるうれありたれはうさ
 すくさびひへええのあられとた
 のさるていりとうけて大さふはし
 る竹よりそひさるやあふは大地の
 けて竹のあまこおん出たりたる
 ようさふちりてうりあつものふ
 つり母はあふたりたれはまをまうて
 まうさふひもいりひとのさるれ
 ひへはうりくのおれちとんよま
 よりあふり



小校氏印施

十

朱熹

あつてもあつて七才の時又その母と
さうなり。それこそ其の母をよくあらうけ
るべし。いふをなげき、いふもつゝはあ
らうゆめ十年にあつた。あつた時にも
あつた人なりともども、らんく
をもすて、いふもどて、まんとり、こ
へたつ。いふは、えんきよとて、母はあつて、
そと、いふより血成して、
う、夫なるいのちとうけて、たつ。
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
ねあつるとかり

小秋氏印施

者

王祥

[illegible]



十のね

蔡順

[illegible]



小牧氏印施

十

度驗婁

ゆきんろくはるんせいのまげんがう。せん
 じやうとろふのうん人さう。すゐらせん
 じやうけんいりきうが。いまだ十日あひな
 らざるまだ。すうすむさな。だまけり
 り。ふふ。又のう。たまふ。と。めひ。く。ん。を。す
 て。く。り。を。ね。ぶ。あ。ん。の。く。ん。さ。ま。さ。う。り。
 えんろく。函師。より。一。は。な。ひ。を。ね。ぶ。
 函師。ね。あ。う。ん。と。あ。ち。て。る。あ。も。も。く。お
 くら。より。さ。う。と。う。り。を。ね。ぶ。えんろ
 う。さ。ま。ね。の。う。り。と。あ。ち。て。る。ね。が。あ。ち
 り。い。い。う。さ。う。さ。う。ね。ぶ。えん。と。う。
 け。い。り。の。り。い。い。の。り。と。う。ひ。く。
 ぬ。う。う。さ。う。えん。の。り。と。う。えん。



小杉氏印施

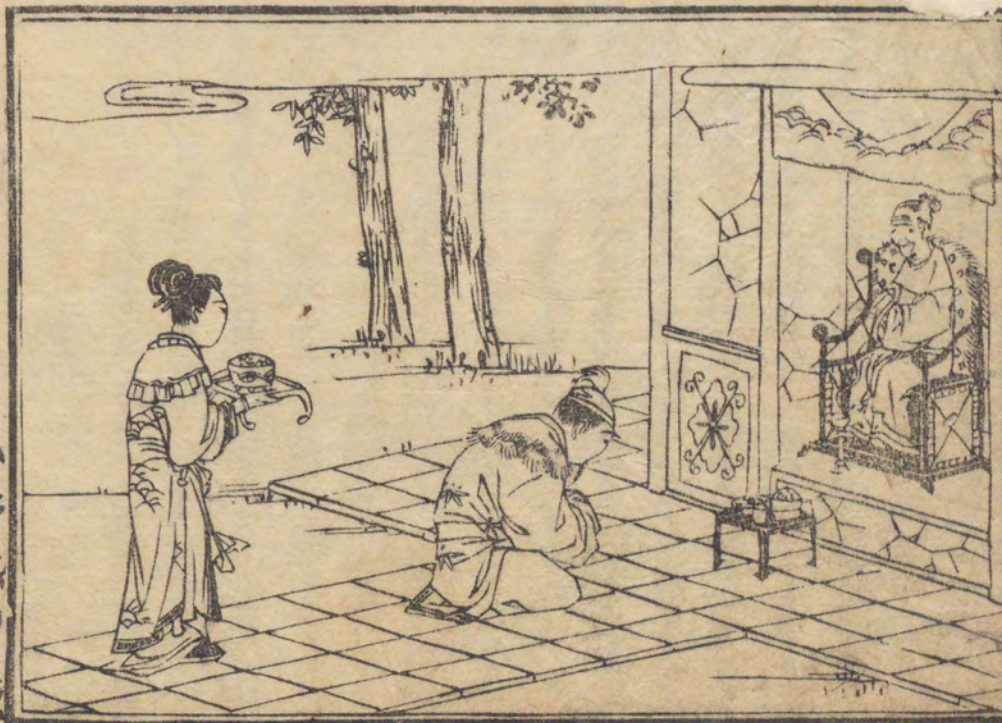
おせん

丁蘭

ていらいのやまうらふ石の人かり
 十人の年母はあられまがれまうれとうき
 と母のうらと本徳まつりいさる人ふつと
 めろとせうていらいづまありあのゆき
 よかどつていらいれあもてとこ
 いわづのていれぞういれ二日
 とこらねいすの女あつてのめうわて
 切とせうてあつてあつてあつて
 ていらいのうらとていらいのうらと
 本徳とていらいとていらいと
 ひのうらとていらいのうらと
 本徳とていらいとていらいと
 うらとていらいのうらと
 うらとていらいのうらと
 うらとていらいのうらと
 うらとていらいのうらと

廿三
夜

張孝張孔

[illegible]

小杉氏印施



小牧氏印施

木下

田真田廣田慶

けこ人いさやうぶかり祝ふをうれてのち祝の
 ぶりやうとこつはまけてとるが危あふまふ利
 樹く木まふさくあもさたさるるま
 一羽んありまもこつはまけてあへしそあ
 すがこ人やんごあまふあまそまはたれ
 本とさうんそまのていさうなれまこの人
 まてさうんまが機まうれり田まもと
 そそまふありて切さうんさうんさうん
 くれりまてさうんさうんさうんさうん
 ざうんやうてさうんさうんさうんさうん
 まてさうんさうんさうんさうんさうん



小牧氏印施

七五

薙子

せんい親のさしよ命とすんときるやの
 ろりくる人かりまぬ父母老てもあふ
 とつひい親は目のまかりとて麻の乳と
 のぞりせんいより考あるあはれ親の
 乳とすんいひ麻の皮とそめいむ
 らかり麻の中へすいれ入付け入痛くも
 そ麻の麻すくはてすやいんとまけり
 子耐せんいも麻の麻あはれせんいあ
 ろるが親のやみすくそいほ麻の形と
 ろるうとあをわすれひねる痛くもい
 そ麻とよばみすくそいふさねざり
 ぬぎふれぬよまとのがれてぬきうそ
 くふて麻の乳とすいねそい
 ぬきふれぬよまとのがれてぬきうそ
 ていふあはれなり

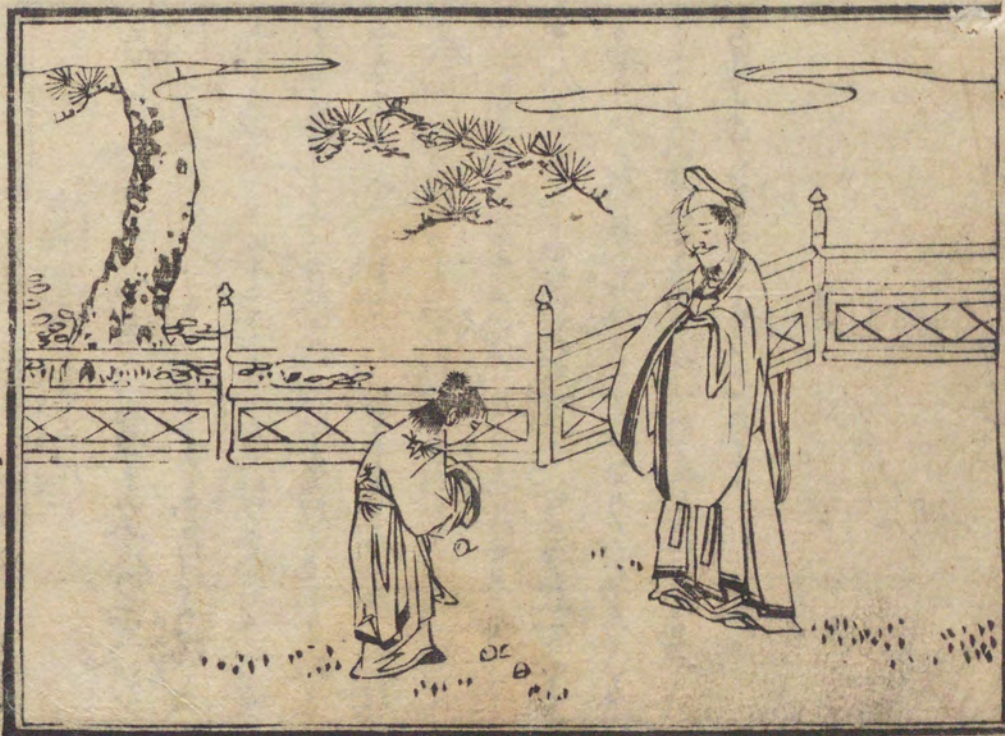


小松氏印施

ちうね

南機 字云記

乃くせん去るの時、あんどあつとふ人の要妙
 儀の、あんどあつとくせんが、あんどあつとくせん
 出せり、あんどあつとくせん、あんどあつとくせん
 とさ、あんどあつとくせん、あんどあつとくせん
 やり、あんどあつとくせん、あんどあつとくせん
 人、あんどあつとくせん、あんどあつとくせん
 り、あんどあつとくせん、あんどあつとくせん
 中、あんどあつとくせん、あんどあつとくせん
 う、あんどあつとくせん、あんどあつとくせん
 と、あんどあつとくせん、あんどあつとくせん
 る、あんどあつとくせん、あんどあつとくせん



小松氏印施

小松氏

後序



先入者主と人主誠
 相のまけもや師も者幼
 喜の教忽ふまげんや予
 友某初学乃事兒を道守
 ふや孝道を主とて教
 んが為に毎月六の日最訓
 と悦はるを孝とめ勸善

書を賞しを會ぐと一枚を
 施し二十四度満ちると
 此一冊を乞ふも亦
 半分の玉に有餘きと
 ぞし父母の恩を忘る師の
 恩を知る師の恩を報せん
 とあはれとて父母の事へ
 心を尽す



下
 下

